

I 2015年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2015年度大学評価結果総評】

地域研究センターは、大学付置研究所として外部資金獲得の努力が真摯に行われ、設立当初より各種の研究活動が継続的・積極的に進められてきたことは評価できる。2015年度は私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の最終年度にあたり、これまでの研究成果の公刊が最重要目標となっている。これまでの諸活動の成果に基づき、充実した結果が期待される。

【2015年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

地域研究センターでは、2014年度に引き続き、2015年度も運営委員会を年5回(4月、6月、9月、11月、2月)開催し、その中で質保証のための議論を行った。

II 自己点検・評価

1 研究活動

【2016年5月時点における点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 研究所の理念・目的に基づき、研究・教育活動が適切に行われているか。

2015年度の活動状況について項目ごとに具体的に記入してください。

①研究・教育活動実績（プロジェクト、シンポジウム、セミナー等）

※2015年度に実施したプロジェクト、シンポジウム、セミナー等について、開催日、場所、テーマ、内容、参加者等の詳細を箇条書きで記入。

【シンポジウム及びセミナー】

- a 地域創生シンポジウムの開催（2015年12月4日）
- b 第13回国際シンポジウムの開催（2016年1月29日）

【その他】

- a 自治体トップ交流会の実施（2015年11月17日）
- b 「社会貢献・課題解決教育」の授業実施（最終成果報告会：2016年2月2日）

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ <http://www.hosei-hurin.net/> へ掲載および各事業チラシ

②対外的に発表した研究成果（出版物、学会発表等）

※2015年度に刊行した出版物（発刊日、タイトル、著者、内容等）や実施した学会発表等（学会名、開催日、開催場所、発表者、内容等）の詳細を箇条書きで記入。

- a 紀要「地域イノベーション」Vol.8（2016年3月発行）
- b 第12回国際シンポジウム報告書（2016年3月発行）
- c 2014年度社会貢献・課題解決教育成果報告集（2015年度9月発行）
- d 2015年度社会貢献・課題解決教育成果報告集（2016年度3月発行）
- e 本研究センターの各研究員による出版物や学会発表

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ 各冊子

③研究成果に対する社会的評価（書評・論文等）

※研究所の刊行物に対して2015年度に書かれた書評（刊行物名、件数等）や2015年度に引用された論文（論文タイトル、件数等）の詳細を箇条書きで記入。

- ・ 特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ 特になし

④研究所（センター）に対する外部からの組織評価（第三者評価等）

（～400字程度まで）※2015年度に外部評価を受けている場合には概要を記入。外部評価を受けていない場合については、現状の取り組みや課題、今後の対応等を記入。

検証プロセスとしては、年度初めと年度末に運営委員会にて議論しており、また年度途中においても、大きな企画を計画するときは、研究所の目的に沿ったものであるかどうかの検討がなされている。今後は評価される研究計画を提案して

外部資金を獲得する予定である。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・運営委員会議事録

⑤ 科研費等外部資金の応募・獲得状況

※2015 年度中に応募した科研費等外部資金（外部資金の名称、件数等）および 2015 年度中に採択を受けた科研費等外部資金（外部資金の名称、件数、金額等）を箇条書きで記入。

- a 環境省「レジリエントシティ政策モデル」の開発とその実装化に関する研究
2013 年度～2015 年度、2015 年度事業額：9,642 千円
- b 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「地域活性化のメカニズムと政策の研究」
2011 年度～2015 年度、2015 年度事業額：11,000 千円
- c 文部科学省 「気候変動適応技術社会実装プログラム」
2015 年度～2019 年度、2015 年度事業額：49,620 千円
- d 台東区 中小企業コンサルティングネットワーク
2015 年度受託額：178,200 円
- e 戸田市 共同研究「戸田市におけるクリエイティブ都市の可能性に関する研究」
2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日、受託額 1,300 千円
- f 広島県熊野町 事業協力に関する覚書締結
2016 年 1 月 19 日～2016 年 3 月 31 日、受託額 200 千円
- g 三鷹市 「民学産公」共同研究事業
2015 年 7 月 15 日～2016 年 2 月 12 日、受託額 200 千円（上限額）
- h 岡山県鏡野町 業務委託契約
2015 年 4 月 29 日～2015 年 12 月 25 日、受託額 5,000 千円
- i 北海道室蘭市 事業協力に関する協定書および覚書締結
2015 年 9 月 7 日～2016 年 3 月 31 日、受託額 400 千円
- j 「千代田学」事業
2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日、受託額 400 千円

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・各契約書・覚書等

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
昨年度は戦略的研究基盤形成支援事業の最終年度であったため、これまでの研究成果の総まとめを重要目標とした。そのための一つである出版物の刊行作業は順調に進んでいる。	1.1 ②

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

現在の内閣で「地域創生」が叫ばれているが、これは地域活性化に他ならない。当センターの持っている知財を投入し、地域活性化に役立てたい。同時に、その間の研究成果を発表したい。
また、さらなる外部資金の獲得を行いたい。

【この基準の大学評価】

地域研究センターは、2015 年度に 2 件のシンポジウムおよびセミナー、2 件の関連する交流会や成果報告会を実施している。また紀要をはじめ 5 冊の研究成果報告を発行している。研究成果の社会的評価は明確ではないが、10 件の受託研究費等の外部資金を獲得している点は評価できる。研究センターに対する外部からの第三者評価は行われていないものの、外部資金の獲得状況から判断すると、評価は高いものと考えられる。

地域創生が叫ばれる現状では、今後は当該研究センターの持つノウハウや知的・人的財産などこれまでの成果等を十分

に活用しながら、より一層社会へ貢献していくことが期待される。

2 内部質保証

(1) 点検・評価項目における 2015 年度の現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

①質保証活動に関する各種委員会は適切に活動していますか。

【2015 年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】※箇条書きで記入。

運営委員会前に副所長ならびに所長との事前打合せを行い運営委員会の速やかな運営を実施し、また規程に基づき定期的に運営委員会を開催している。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

地域研究センターでは、定期的に行われる運営委員会の前に、所長と副所長が事前の打ち合わせを行い、規程に基づいたその後の運営委員会の中で、大学から示された各種方針に基づき、内部質保証に関する自己点検・評価活動が適切に実施されている。

【大学評価総評】

地域研究センターは、受託研究費等の外部資金を獲得しており、積極的に研究成果の公表が行われている点で評価できる。地域創生が叫ばれる現状では、今後とも当該研究センターの持つノウハウや知的・人的財産など、これまでの成果等を十分に活用しながら、より一層社会へ貢献していくことが期待される。また外部からの第三者評価を実施するなど、より厳格な PDCA サイクルを機能させる取り組みにも期待したい。